

論文

- ブレンディッド・ラーニングを取り入れた再履修クラスカリキュラムの検証：
自己調整学習の観点から 立田夏子 1
- DTMによる作曲体験を用いたクリエイティブ・ラーニングの実践
—歌声合成ソフト「UTAU」やシーケンスソフト「MUSE SCORE」
などによるCo-writingの試み 清水 稔 17
- 初年次教育におけるコミュニケーションの構築と「知の技法」の生成
～新型コロナ禍におけるオンライン学習の中で～ 清水 稔, 宮崎充治 33
- 教養教育英語科目受講生のスピーキング能力の推定 横内裕一郎 49

研究ノート

- イギリスと日本の植民地文学における「自然界」と「場」をめぐる
比較文化的な研究の初歩 ソロモン ジョシュア リー 57

実践報告

- 多文化間共修クラスの教養教育における位置づけと将来像
—弘前大学での実践から— 小山宣子 67
- メディア授業環境下におけるシャドーイングの実践とその効果 佐藤 剛 77
- 教養教育英語科目における再履修クラスカリキュラム(～2019年度) 立田夏子 91
- 国際園芸農学科の学生の為の「2020年度 Integrated C」で行う
特別オンライン英語授業：ランチ・タイム日本料理プレゼンテーションの
新しいモデルの報告 バーマン シャーリー ジョイ 99
- 初級者のSALC利用：教養教育との連携 多田恵実 105

FD報告

- 教養教育英語科目におけるParticipationの評価内容・方法を考える
立田夏子, 多田恵実 111
- 実践報告 教養教育における遠隔授業のサポートおよびFD活動
多田恵実, 片桐早苗, ヤグノ ライク
ソロモン ジョシュア リー, 立田夏子 119

目 次

論 文

- 1) ブレンディッド・ラーニングを取り入れた再履修クラスカリキュラムの検証：
自己調整学習の観点から
..... 立 田 夏 子 1
- 2) DTMによる作曲体験を用いたクリエイティブ・ラーニングの実践
—歌声合成ソフト「UTAU」やシーケンスソフト「MUSE SCORE」
などによるCo-writingの試み
..... 清 水 稔 17
- 3) 初年次教育におけるコミュニケーションの構築と「知の技法」の生成
～新型コロナ禍におけるオンライン学習の中で～
..... 清 水 稔, 宮 崎 充 治 33
- 4) 教養教育英語科目受講生のスピーキング能力の推定
..... 横 内 裕一郎 49

研究ノート

- 1) An Introductory Comparative Study of Themes of Place and Nature
in British and Japanese Colonial Literature
..... Joshua Lee SOLOMON 57

実践報告

- 1) 多文化間共修クラスの教養教育における位置づけと将来像
—弘前大学での実践から—
..... 小 山 宣 子 67
- 2) メディア授業環境下におけるシャドーイングの実践とその効果
..... 佐 藤 剛 77
- 3) 教養教育英語科目における再履修クラスカリキュラム（～2019年度）
..... 立 田 夏 子 91
- 4) Integrated C 2020, Designing a Special Online English Course for International
Horticulture Students: A Short Report on a New Model for Lunchtime Japanese
Food Presentations Shari Joy BERMAN 99
- 5) 初級者のSALC利用：
教養教育との連携
..... 多 田 恵 実 105

FD報告

- 1) 教養教育英語科目における Participation の評価内容・方法を考える
..... 立 田 夏 子, 多 田 恵 実 111

- 2) 実践報告 教養教育における遠隔授業のサポートおよびFD活動
..... 多 田 恵 実, 片 桐 早 苗, ヤグノ・ライク
ソロモン・ジョシュア・リー, 立 田 夏 子 119

「弘前大学教養教育開発実践ジャーナル」投稿要項

平成28年11月22日

教養教育開発実践センター編集委員会承認

改正：平成30年7月19日

1. 「教養教育開発実践ジャーナル」は、高等教育に関する実践的・学術的研究を促進し、「教養教育」の改善に資するために、その実践的・学術的研究の成果を公表することを目的として刊行する。
2. 発行は原則として年1回、3月末とする。
3. 原稿の締切は、年度毎に編集委員会が定める。
4. 「教養教育開発実践ジャーナル」に掲載する原稿は、次に掲げる(1)～(5)に属するものとし、掲載の可否は編集委員会が判断する。ただし、(1)論文、(2)研究ノートについては査読審査を経たものに限る。なお、(1)論文、(2)研究ノートとして掲載ができないと編集委員会が判断した場合、他の区分として再投稿することを可能とする。
 - (1) 論文：教養教育に関する論文
 - (2) 研究ノート：教養教育に関する研究ノート
 - (3) 実践報告：教養教育に関する実践報告
 - (4) 書評：教養教育に関する著書の書評
 - (5) その他
5. 論文等の原稿は、和文（横書・縦書）又は英文を原則とする。
6. 論文等の原稿は、和文20,000字以内、英文6,000語以内を目安とする。
7. 論文等は複数編投稿しても良いものとするが、それぞれの論文等が独立し完結したものでなければならない。
8. 原稿の作成に際しては所定の執筆要項（別掲）に従うものとする。
9. 校正は原則として著者が行い、2校までとする。
10. 別刷を希望する場合、経費は著者負担とする。
11. 「教養教育開発実践ジャーナル」に掲載された論文等の著作権及び電子化の権利については、以下のとおりとする。
 - (1) 掲載された論文等の著作権は、教育推進機構教養教育開発実践センター（編集委員会）に帰属する。
 - (2) 当該論文等について、執筆者本人が学術教育目的等で使用する場合（執筆者自身による著作編集物への転載、掲載、ネット配信、外国語への翻訳、配布等）、教育推進機構教養教育開発実践センター（編集委員会）は無条件で許諾する。
 - (3) 掲載された論文等は電子化し、原則としてHP、弘前大学リポジトリ等で公開する。
12. 投稿原稿は他誌に未発表のものに限る。

附 則

この要項は、平成28年11月22日から施行する。

附 則（平成29年8月4日）

この要項は、平成29年8月4日から実施する。

附 則（平成30年7月19日）

この要項は、平成30年7月19日から実施する。

「弘前大学教養教育開発実践ジャーナル」執筆要項

平成28年11月22日
 教養教育開発実践センター編集委員会承認
 改正：平成30年7月19日
 改正：令和2年8月27日

1. 原稿は原則として電子ファイルで作成し、メール等で電子ファイルを担当者（執筆申し込みの際に送付先を連絡します）にお送り下さい。また、併せて、電子ファイルを印刷したものに後述の指定事項を記入した紙原稿を添えて下さい。なお、電子ファイルは、PDF、EPS、一太郎、Word、Excel、PowerPoint、TIFF等の一般的なファイル形式として下さい。（TEX、LATEX等の組版原稿には対応できません。）
2. 提出原稿は完成原稿とし、図表（写真を含む。）ごとに電子ファイルを一般的な形式で作成し、原稿の電子ファイルと併せて提出して下さい。（作図イメージに近い刷り上がりとするためには、論文として印刷される大きさで作ったPDFファイルをお勧めします。）なお、写真データの解像度は原則300dpi以上として下さい。図表は白黒の刷り上がりになります。
3. 原稿の書式は、次のとおりとします。
 - (1) 和文原稿
 横書きの場合はA4判・1段組、48字×42行を標準とし、フォントサイズは10ポイントを原則とします。縦書きの場合は、A4判・2段組、33字×27行を標準とし、フォントサイズは10ポイントを原則とします。
 - (2) 英文原稿
 A4判・1段組、シングルスペースで38字×45行を標準とし、フォントはTimes New Roman、フォントサイズは12ポイントを原則とします。
 - (3) 和文・英文原稿共通
 - 原稿の章立て、段落のフォーマットはこれまでに発行された教養教育開発実践ジャーナルに準じるものとします。
 - 図表の提示方法はPublication manual of the American Psychological Association seventh edition (American Psychological Association: APA, 2020) の形式に準じた形式としますが、執筆内容や分野の特性に応じて適宜変更しても良いこととします。
4. 原稿は、論文題目、氏名、要旨、キーワード、本文、参考文献、付録の順で記載して下さい。
5. 論文題目、著者名及び所属は和英両語で記載して下さい。
6. 本文の前に要旨（Abstract）及びキーワードを置いて下さい。要旨は、和文の場合は400字以内、英文の場合は200語以内とし、キーワードは最大5つ程度として下さい。
7. 母語でない言語で原稿を執筆する場合には、母語話者によるチェックを受けて下さい。原稿提出の際には、校正を受けた証明をして下さい。
8. 参考文献は本文末尾に一括して記載して下さい。なお、参考文献の書き方については、Publication manual of the American Psychological Association seventh editionに記載の方法に従い、和文原稿の場合下記の例を参考に、著者. (発行年). 論文のタイトル, ジャーナルのタイトル, 掲載ページ数, doi等の情報を必ず入れて下さい。

参考文献の記載例

英文文献（以下はPurdue Writing Labに掲載された例のうち、特に重要なものを掲載したものです）

定期刊行物

Author, A. A., Author, B. B., & Author, C. C. (Year). Title of article. *Title of Periodical*, volume number (issue

number), pages. <https://doi.org/xx.xxx/yyyy>

書籍

Author, A. A. (Year of publication). *Title of work: Capital letter also for subtitle*. Publisher Name.

書籍（编者あり）

Author, A. A. (Year of publication). *Title of work: Capital letter also for subtitle* (E. Editor, Ed.). Publisher.

書籍（書籍の一部の章）

Author, A. A., & Author, B. B. (Year of publication). Title of chapter. In E. E. Editor & F. F. Editor (Eds.), *Title of work: Capital letter also for subtitle* (pp. pages of chapter). Publisher.

注：その他の例は直接Publication manual of the American Psychological Association seventh editionを参照した上で記載ください。

和文文献

学術論文

著者氏名., 著者氏名., & 著者氏名. (発行年). 論文タイトル. 雑誌タイトル, xx, pp-pp. <https://doi.org/xx.xxx/yyyy>

書籍

著者氏名. (発行年). 書籍のタイトル. 出版社

書籍の一部の章

著者氏名., & 著者氏名. (発行年) 章のタイトル. 编者氏名., 编者氏名 (編). 本のタイトル (pp. xxx-xxx). 出版社

9. 特別に指定したい事項は、その該当箇所及び指示内容を紙原稿内に朱書するなどして明示して下さい。
10. 原稿の提出に際しては、所定の「投稿申込用紙」に必要事項を記載のうえ、添付して下さい。

附 則

この要項は、平成28年11月22日から実施する。

附 則

この要項は、平成30年7月19日から実施する。

附 則

この要項は、令和2年8月27日から実施する。

教養教育開発実践センター編集委員会

編集委員長	松崎正敏（農学生命科学部）
編集委員	今田匡彦（教育学部）
	今泉忠淳（大学院医学研究科）
	城田農（大学院理工学研究科）
	多田恵実（教育推進機構 教養教育開発実践センター）
	ソロモン ジョシュア リー （教育推進機構 教養教育開発実践センター）
	横内裕一郎（教育推進機構 教養教育開発実践センター）

編集後記

「弘前大学教養教育開発実践ジャーナル」第5号が刊行の運びとなりました。執筆者の皆様は勿論、査読などにご協力頂いた皆様、編集作業に関わった事務職員の皆様、編集委員各位の協力を得て、無事にここまでたどり着けました。ご協力に感謝いたします。

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、インターネットを通じた遠隔授業“メディア授業”への対応でスタートした令和2年度でした。今号の12編の報文のうち、5編がオンライン授業やそのためのFD活動に言及したものとなっていることから、多くの教職員にとって初めてのメディア授業に大変なエネルギーを注いだ1年間であったことが窺われます。そんな中でも、多岐にわたるテーマの報文が寄せられたことは本学の教養教育に携わる教員の活性の高さを反映しているものと大変誇らしく感じています。

今年度はじめて編集委員長を仰せつかって、本誌の刊行には多くの方々の想いやお時間が注がれていることに驚いているところです。たくさんの方々にお読みいただき、ご意見ご感想をお寄せいただけましたら幸いです。今後とも、ご指導賜りますようお願い申し上げます。

（松崎）

『弘前大学教養教育開発実践ジャーナル』第5号

発行人	弘前大学 教育推進機構 教養教育開発実践センター
編集	教養教育開発実践センター編集委員会
連絡先	〒036-8560 青森県弘前市文京町1 学務部教務課教務グループ 教養教育担当 電話：0172-39-3104 E-mail：jm3104@hirosaki-u.ac.jp
発行所	弘前大学出版会 FUP 〒036-8560 青森県弘前市文京町1 電話：0172-39-3168 FAX：0172-39-3171
発行年月日	2021年3月31日（非売品）
印刷・製本	やまと印刷株式会社

ARTICLES

- Evaluating Blended Learning in the Liberal Arts English Repeater Class Curriculum: A Perspective Based on Self-Regulated Learning Natsuko TATSUTA 1
- Practice of Creative Learning Using Composition Experience by Computer Music: Co-writing Trials Using Singing Voice Synthesis Software “UTAU” and Sequence Software “MUSE SCORE” Minoru SHIMIZU 17
- The Generation of “Knowledge Techniques” with the Construction of Communication in First-Year Education: Online Learning in the Covid-19 pandemic Minoru SHIMIZU and Michiharu MIYAZAKI 33
- Estimation of Speaking Proficiency of Students in English for Liberal Arts Courses Yuichiro YOKOUCHI 49

RESEARCH NOTES

- An Introductory Comparative Study of Themes of Place and Nature in British and Japanese Colonial Literature Joshua Lee SOLOMON 57

PRACTICAL REPORTS

- Collaborative Learning between Japanese and International Exchange Students in a Liberal Arts Education Course: a practical guide and its future possibilities Nobuko OYAMA 67
- The Practice and Effectiveness of Shadowing in an Online Class Environment Tsuyoshi SATO 77
- The Liberal Arts English Repeater Class Curriculum (-2019 Academic Year) Natsuko TATSUTA 91
- Integrated C 2020, Designing a Special Online English Course for International Horticulture Students: A Short Report on a New Model for Lunchtime Japanese Food Presentations Shari Joy BERMAN 99
- SALC for Beginners: Establishing Links with Liberal Arts Classes Megumi TADA 105

FD REPORTS

- How Do You Evaluate Participation? Natsuko TATSUTA and Megumi TADA 111
- Report on Liberal Arts English Teachers' Remote Teaching Support and Faculty Development Activities Megumi TADA, Sanae KATAGIRI, Reik JAGNO Joshua Lee SOLOMON and Natsuko TATSUTA 119
-